

平成 28 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270600455		
法人名	社会福祉法人十和田湖会		
事業所名	グループホームきゃんぱす		
所在地	〒034-0041 青森県十和田市相坂字小林76-5		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年10月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>1.園庭に野菜や花々を植え、成長を見守りながら季節の変化を感じてもらい、また収穫の喜びを共有しコミュニケーションを円滑に行っています。</p> <p>2.町内会の一員として地域の行事へ参加したり清掃奉仕を行い、関わりを作っています。</p> <p>3.外出行事を多く取り入れたり、行事以外でも散歩やドライブを取り入れ、季節折々の花や風景を楽しんでいただいています。</p> <p>4.他、事業所との交流会の場を持ち、活性に繋げています。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所内は季節感があり、落ち着いた雰囲気を利用者の方は穏やかな表情で生活されている。畑作りを通して利用者それぞれが役割を發揮して、日常のケアへつながりが活かせるような取り組みがされている。外出の機会も多く、利用者の要望を聞いて、地域や家族とのつながりが継続できるよう職員が連携して取り組んでいる。又、地域の町内会長や消防団などと連携を図り、地域とのつながりが確立されている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流や町内会行事に入居者の方も一緒に参加し、交流を深める事で「その人らしい暮らし」ができるよう実践している。	月1回の職員会議で理念に基づいたケアができるよう話し合い、実践に取り組んでいる。又、ホールなどに理念を掲示し職員への意識付けを図っている。	理念について、職員各自の理解に個人差が見られるため、全職員へ浸透されるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や清掃奉仕へ参加し、地域の一員として活動している。また、台風等があった際は、地区消防団が立ち寄り様子を見に来てくれている。	町内会の行事に積極的に参加して地域とのつながりがある。又、台風等の時は消防団員が心配して立ち寄り、普段から町内会長が訪問するなど日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めるための寸劇一座に参加し地域のみならず、県内外で講演をし、人々に向け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や事業所全体の報告はもちろん、勉強会を実施し、お互いの意見を交換しながら今後の取り組みの参考にし、サービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催しており、家族へ参加を働きかけている。参加者の意見をもとに、利用者のサービス向上に取り組んだり意見交換がされている。	運営推進会議記録が報告に終始しているため、検討事項も行なっているという事も記録に残し、さらなるサービス向上に活かす事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者が毎回運営推進会議に参加し情報を伝達し共有している。また、市の「高齢者あんしん見守り隊」に登録し、町内の見守りや、市で開催している模擬訓練に参加し、関係を築く様取り組んでいる。	市役所職員が運営推進会議に毎回参加し、情報交換ができています。又、市の「高齢者あんしん見守り隊」に登録し、模擬訓練に事業所として参加するなど協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い共通理解に努めている。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。	玄関は施錠せず開放されている。身体拘束に関する勉強会を実施しており、万が一、無断外出した場合の対応も周知されており、共通認識が図れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はお互いに支援状況を把握しており、虐待がないよう情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の制度を利用されている入居者がいる。知るべき知識は勉強会を行ってはいるが、まだまだ理解不足の為、学ぶ場を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居時は家族へ十分な説明を行い不安や疑問等を確認し、ご理解をいただいている。特別な理由での変更時は、運営推進会議で話す場を設けたり、個別に連絡し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会にいらした際は積極的に声を掛け意見や要望を伺うようにしている。また玄関に苦情受付窓口を設置し明示している。	利用者が日々のケアの中で自由に意見や要望を話せる関係作りに努めている。家族の面会時に利用者の近況報告をしながら、意見や要望を聞く場面を作り、要望に対して職員間で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているグループホーム内の職員会議や、きゃんぱす内合同職員会議にて、意見や提案を出し合う機会を設けている。	定期的に職員会議や合同会議を開催し、職員の意見や提案を反映させている。又、朝礼や申し送りなど、日頃から意見を出せる環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は法人全体に配慮しており、現状を把握するとともに、職員の向上心を損なわないよう、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修に積極的に参加しスキルアップを図っている。また研修報告書を提出し報告会にて周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寸劇一座の一員として、講演会に参加し同業者との交流がある。他グループホームと交流会を企画し、入居者も含め相互交流を図り、サービスの質の向上を目指す取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、本人との会話を多くもち、その言動から状況を把握し、安心して暮らせる場所だと理解してもらえよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族との面談に時間をかけ、これまでの経過と今後の希望、要望について伺い、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の本人の様子を注意深く観察し、本人や家族との関わりの中で「今」の想いを聞き取り、何が必要か見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に入居者と職員が一緒に家事や菜園の世話をし、横並びの関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、本人の今後の支援の方向性を一緒に考えている。ただし家族が主体にならないよう配慮している。絆を大切に想いながら本人を広く支えていく関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントを活かしながら日々のケアを通して、自宅訪問や、いきつけの美容院、お墓参りなど馴染みの人や場所を大切に、また、できるよう支援している。	日々のケアの中で情報収集に努め、利用者が馴染みの関係を継続できるように支援している。また、自宅訪問や昔から利用している美容院、墓参りなどの希望があれば出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの個性を受け止めながら団体生活の中で、嫌な気持ちで暮らしたり、トラブルにつながらないように、職員が間に入り、孤立なく生活ができるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不幸により退居された入居者の家族と町内や市の行事を通して、コミュニケーションを図りながら関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にセンター方式のアセスメントをし、日常の表情や発する言葉などから思いを推察したり、本人に聞いている。また職員は、暮らしの中で入居者の気持ちや希望の把握に努め、本人の意向を理解できるようにしている。	利用者の思いや意向を聞き、要望に答えるように努めている。意向が把握できない場合は、職員が気持ちを汲み取ったり、家族の面会時に積極的に情報収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や本人、家族、本人が暮らしていた地域の人や面会者などからも話を聞いて、生活歴の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に毎日、一日の過ごした様子を記録し、心身状態に変化があった時は、記録以外に申し送りで詳しく情報を報告し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、担当職員、職員の意見を総合的にまとめ、本人主体の計画を作成している。また、カンファレンスの際は、事前に家族へ連絡し参加を促している。	本人・家族から意見や要望を聞き、プランに反映させるようにしている。また、定期的にカンファレンス・モニタリングを行うことで統一したケアにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施、結果や気づきを個々のケース記録に記載し、職員間で共有しながら、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況を理解し、出来ることを見つけ、柔軟な支援をしていきたいと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本好きな入居者には図書館を利用し心身の力を継続できるような対応を心がけている。市役所や郵便局の利用などお手伝いをしながら、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している、かかりつけ医は継続し関係を保持している。また、入居者や家族の希望を受け入れ受診している。	本人のかかりつけ医に受診できるように支援している。又、受診時に何か変化があれば家族へ報告し情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じ併設のデイサービスの看護師に相談し助言や協力を得られる体制作りをしている。入居者には適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長引く入院により認知症の進行やADL低下を防ぐためにも医療機関と情報交換し早期に退院できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、入居後もグループホームにおける重度化～終末期について、的に十分に説明、話し合いをし、本人、家族、職員が不安なく対応できるよう対応している。	入居時に重度化や終末期における方針について説明し、希望があれば事業所で対応している。職員が重度化に不安なく対応できるよう協力医や看護師、家族と連携を図れる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内の壁に手当の手順を掲示している。毎月、急変時の対応や応急手当について勉強会を実施し、緊急時速やかに対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回デイサービスとの合同防災訓練や消防員立会いの訓練の実施。グループホームにおいては毎月、日中・夜間の防災訓練の他に自然災害を想定した訓練も行っている。地域の消防団や防災クラブと連携し協力体制を築いている。	年2回総合訓練を計画し、実施している。又、毎月日中・夜間を想定した訓練を行い、適切な避難・誘導ができるよう取り組んでいる。地域の消防団などと連携し、災害時の協力体制が確立している。	毎月避難訓練を実施しているが、マニュアルを作成し、周知や見直しに活用されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に記載されている書類等は取扱いに注意し、書庫へ管理している。入居者一人ひとりの性格やこれまでの生活歴を考慮した上での対応を心がけている。	利用者の気持ちを受容し、さりげなく自己決定できるような声かけに努めている。個人情報に関する書類は鍵付きの書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押しつけ、決めつけで判断せず、入居者主体で自己決定ができる働きかけをし、納得、満足が得られるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にあてはめず、その場、その時に体調や気分に合わせて、ゆったりと暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院の利用、化粧をする入居者の肌へのケアもお手伝いしている。本人へ外出や入浴の際の衣類は選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中で嗜好を聞き取り、メニューに取り入れ提供している。野菜の収穫時期には、一緒に収穫を行い楽しみを混ぜあいながら、活かしている。入居者と一緒に配膳や片付けをしている。	利用者が野菜を切ったり、配膳・下膳、おやつ作りなど職員と一緒にできるように支援している。又、畑で作った野菜や手作り味噌などをメニューに取り入れ、季節を感じながら食事を楽しめるような声かけや支援を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が被らないように配慮している。水分は入居者の好みに応じたり選んでいただいている。摂取量は個人記録に毎食、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態や力に合わせて口腔ケアを行い、清潔保持している。一日一回は入れ歯洗浄剤を活用し、口腔内の観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを観察し、自尊心を傷つけないよう細心の注意を払いながら支援にあっている。オムツは最後の手段である。と共通認識を持ち、トイレでの排泄に向けたケアを行っている。	利用者への声かけはプライドを傷つけないように配慮し、さりげないケアを心がけている。排泄パターンの把握に努め、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握や軽体操や運動への働きかけをしている。お通じに良いとされる食材を取り入れ対応している。また、毎朝、乳飲料の摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的に週2回の入浴を実施しているが、状態、要望に応じ週4回の入浴が可能で対応している。ゆったりとリラックスして入浴していただくために一人ひとりの入浴を配慮しコミュニケーションを図りながら楽しく入浴していただいている。	利用者の好みや習慣を聞いて、安全に安心して入浴できるように配慮されている。入浴拒否の方には職員が連携して声かけするなど個々に応じた対応に努めている。又、身体状況に応じて併設デイサービスセンターの機械浴を利用できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休む習慣がある方は休んでいたが、それぞれTVを見たり、本を読んだりと休息している。夜間は電気の明るさや温度を気に掛けながら1時間おきに巡視を行い、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報ファイルを用い、職員間で共有している。毎食、服薬する入居者の名前と飲み忘れがないか確認している。受診時は医師に状態を報告し、内服に変化があった場合は、家族へ速やかに報告し了解を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活状況や嗜好、楽しみをリサーチし、その方に沿ったアクティビティを提供するよう心がけ、活気ある生活に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を多く取り入れている。また近くのスーパーへ買い物や天気を見て、町内の散歩や市内ドライブを実施し、本人の希望に沿った外出を支援している。	外出行事の実施や、利用者の希望を聞いて、買い物やドライブに週3・4回出掛けるなど、外出の機会を設けている。又、必要に応じて家族の協力を得ながら外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	郵便局の引き落としの際は入居者本人に用紙へ記入していただいている。店の方々に認知症を理解していただいたうえで、会計を支払う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している入居者もおり家族とやりとりをしている。電話の要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入居者と一緒に行った製作を飾ったり、温度計を用い、こまめに室温を調整している。トイレやオムツを利用する場所は臭いに配慮するなどの工夫をしている。	窓や天窓から適度な採光があり、室温も過ごしやすく管理されている。玄関、ホールなどに装飾品や花が飾られ、季節を感じられるように支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを各場所に置き、みんなと共有できるスペース、個々で休めるスペースがある。本や雑誌もあり、居室でゆったりと読む事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の部屋作りでは、本人や家族の意向をくみ取りながら配置をしたり、思い入れのある物、使い慣れた物を活用している。自宅に行き、庭の花を摘んで帰ってきたり衣替えをし、工夫している。	居室に使い慣れた物を持ち込んでもらい、本人の意向に合わせた環境作りを行い、落ち着いて過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事への理解、その方に応じた行動を把握し、安心安全に生活ができるよう建物内は入居者の目線に合わせ配置に気をつけている。		